

江蘇杯中国語スピーチコンテスト

現代中国学部 藤森 猛

2018年12月15日、名古屋校舎グローバルコンベンションホールで、第4回「江蘇杯中国語スピーチコンテスト」が行われました(愛知大学、江蘇国際文化センター、南京大学主催)。当日は、午前中に高校の部、午後に大学の部が実施され、審査を通過した中部東海地区の65名の大学生が参加しました。大学の部では(1)初級班(学習歴1年未満)(2)中上級班(学習歴1年以上)の2部門に分かれてコンクールが行われ、本学の学生も多数参加して、本年も受賞者を出すことができました。本稿では、コンテストに参加する際の中国語学習の留意点をまとめます。

(1)初級班(大学1年生向け) 中国語の「自己紹介」と「朗読」がコンテストの内容となり、発音と内容の合計点で審査されます。発音は①ピンインが正確であることが条件になります。特に日本人が苦手な zhi, chi, shi, ri のそり舌音と母音の e の音をしっかりと発音することが重要です。さらに②ポーズ(フレーズ、文中の小休止)、③強弱(強く、ゆっくり読む部分)を

入れるとメリハリがつきます。

(2)中上級班(大学2~4年生向け) 中国語の「スピーチ」、審査員の質問に対する中国語による「回答」がコンテストの内容となり、審査では①スピーチ、回答とも正確なピンインの発音が絶対条件になります。一つ一つの単語の声調(イントネーション)が完璧であり、かつ②ポーズ、③強弱が加えられ、話し方が流暢であることが求められます。ピンインの練習は、どのコンテスト参加者も行っているのですが、②③の練習の習熟度で差がついてきます。また審査員による中国語の質問の内容は、中国に関する事(中国や江蘇省の地理、習慣、食事、旅行)と中国語の学習に関する事(普段の勉強法、留学、中国語の特徴)などになります。ですから質問を想定して例えば中華料理(江蘇料理)を試食すること、江蘇省の地理や文化を勉強することも大切だと思います。なお、コンテストの際の、演劇的なパフォーマンスは審査では求められませんので、普段の中国語学習の成果が試される機会となります。



2018年江蘇杯(大学の部)集合写真(2018年12月)[写真提供:愛知大学国際交流課]